

提供日 2023/07/24
タイトル マダニに咬まれないよう注意しましょう！（「重症熱性血小板減少症候群（SFTS）」患者が発生しました）
担当 健康福祉部 感染症対策局感染症対策課
連絡先 ふじのくに感染症管理センター
TEL 055-928-7272



—危機管理情報—

マダニに咬まれないように注意しましょう！
～県内13例目、今年3例目の「重症熱性血小板減少症候群（SFTS）」患者が確認されました～

1 要旨

熱海保健所管内在住の80歳代男性が、7月14日から発熱、下痢、筋肉痛、倦怠感等の症状を呈し、7月16日に熱海保健所管内の医療機関に入院しました。7月20日に検体（血清）を採取し、県環境衛生科学研究所で検査を行ったところ、重症熱性血小板減少症候群（SFTS）の病原体遺伝子が検出され、SFTSであることが確認されました。なお、患者は現在も入院中ですが、快方に向かっています。

県内でSFTSの患者が確認されたのは、今年に入ってから3例目です。春から秋にかけてマダニの活動が盛んになる時期です。レジャーや農作業などで野山や草むら、畑などに入るとマダニに咬まれることがあります。**マダニが病原体を保有していると、咬まれた人が「重症熱性血小板減少症候群（SFTS）」「日本紅斑熱」、などの感染症にかかる危険性があります。**これらの疾患にかからないようにするために、野外でのマダニ対策が重要です。

特に、マダニの活動が活発な5月頃から11月頃までの時期は、野山や畑等の屋外でマダニに咬まれないよう十分注意しましょう。また、屋外を出入りする犬や猫等に付着したマダニに屋内で咬まれないよう注意しましょう。

※ 報道機関各位におかれましては、患者及び患者家族等について、本人等が特定されることのないよう、格別の御配慮をお願いします。

2 マダニが媒介する主な感染症

(1) 重症熱性血小板減少症候群(SFTS)

- 感染経路は、SFTSウイルスを保有するマダニに咬まれることが中心ですが、血液等の患者体液との接触や、マダニに咬まれSFTSウイルスに感染している犬や猫の体液から感染することも報告されています。
- マダニに咬まれてから、6日から14日の潜伏期間の後、発熱、消化器症状などが現れ、重症化した場合には死に至ることもあります。
- 県内では令和3年から年間4～6例、3年間で計13例発生しており、本年は今回報告例を含めて3例が報告されています。

(2) 日本紅斑熱

- 日本紅斑熱リケッチアという病原体を保有するマダニに咬まれることで感染し、人から人へ感染して広がるものではありません。
- マダニに咬まれてから、2日から8日の潜伏期間の後、高熱、発疹が現れ、重症化した場合には、死に至ることもあります。
- 県内では、平成30年からの最近5年間で、年間3～10例、計37例発生しており、本年は3例が報告されています。

3 県民の皆様へ

(1) マダニに咬まれないようにしましょう！

- 特にマダニの活動が盛んな、春から秋にかけて注意が必要です。
- 野山や草むら、畑などに入る場合は、耳を覆う帽子、首に巻くタオル、長袖、長ズボン、足を完全に覆う靴を着用し、肌の露出を少なくしてください。

- マダニ用に市販されている忌避剤はありますが、マダニの付着を完全に防ぐことはできませんので、他の防護手段と組み合わせて対策を取りましょう。

(2) 屋外活動後は、マダニに咬まれていないか確認しましょう！

- マダニに咬まれた場合は、数日間、体調の変化に注意しましょう。
- 発熱・発疹の症状が見られたら、早めに医療機関を受診し、マダニに咬まれた可能性があることを医師に伝えましょう。

(3) ペットに付着して、マダニが家の中に入ってくることもあります！

- 飼育している犬や猫にもダニ駆除剤を使用しましょう。
- 飼育している動物の健康状態の変化に注意し、動物が体調不良の際には、咬まれたりなめられたりしないようにして、動物病院を受診して下さい。

4 SFTSの過去5年間患者数（人） 令和5年全国は現時点の暫定

年	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年
全国	77	101	78	110	118	90
静岡県	0	0	0	4	6	3

5 日本紅斑熱の過去5年間患者数（人） 令和5年全国は現時点の暫定

年	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年
全国	305	318	421	487	460	169
静岡県	3	10	8	8	5	3